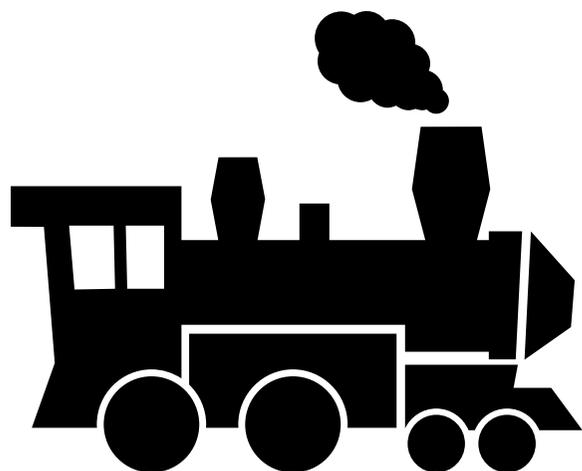


複製・転記不可

安全管理と事故予防

～ ガイドライン（一部抜粋）～



【制作・著作】

子ども専門旅行会社 ×  × 子ども旅行制作会社
〒125-0061 東京都葛飾区亀有 2-18-6 TEL 03-6321-1166 FAX 03-6893-0583

INSOTSU INC.

安全管理と事故予防ガイドライン（一部抜粋）

「事故は起こらない」のではなく「事故は起こり得る」という認識の元に「事故はおこさない」という強い思いを持って運営します。子どもたちにとって経験すべきことは危険が伴う内容であっても、危険だからやらないという判断ではなく、危険ならば危険を回避する方法を考え、安全対策を複数実施することでリスクを減らす努力と対策を実施することで子どもたちの経験の機会を損なわないようにします。

- ★ 事故を大きく分けると天災と人災に分けられ、人災は引率スタッフの危険予知とイメージトレーニングで防ぐことが可能です。プログラムを確認しながら人員の配置と注意喚起の内容とタイミング、万が一のための応急設備などの確認を複数回実施します。
- ★ プログラムを実施する前に必ず子どもたちに対して安全指導を行います。口頭に限らず、実際に物や状況を再現してできるだけ子どもたちでも容易に理解できるように展開します。子どもたちに理解してもらうことが安全対策の1歩です。
- ★ 交通事故でよく取り上げられることですが、大きな1つの事故までには29のひやりどっきりとしたことがあり、270の気づかない小さな事故があると言われます。子どもたちの対象とした事業でも同じです。危険予知・確認・安全指導で270の気づきにくい事故を出来る限り減らし、29のひやりどっきりする事態を防ぎ、大きな事故を防いで行きます。
- ★ 常に～だろうという意識ではなく、～かもしれないという意識で行動し、点呼や薬の服用など確認作業は何度でも自信が持てるまで行います。

★ 事故には怪我・病気はもちろん心・場所・物・時間・数などがあります。

- ① 【怪我】 期間中は入浴なども含め必ず運営スタッフが同行します。各部屋での身辺整理や就寝・起床時も運営スタッフが順次巡回をいたします。専門指導者が伴う活動であっても指導者の進行のもとに実施し、運営スタッフは巡回します。
- ② 【病気】 風邪・発熱の場合は他の子どもと別の部屋での生活とします。インフルエンザ・ノロウイルスなどが発祥した場合は他の子どもたちから完全に隔離いたします。またノロウイルスの疑いがある場合は宿泊先での洗濯は行いません。また嘔吐をした場所は塩素消毒を行います。
- ③ 【心】 ホームシックなどの対応はしっかりと結論を急がず、一時しのぎやごまかしはしません。喧嘩やいじめなどの対応も解決の道が開けるまでしっかりと対応いたします。また対応は対象者のみで行い解決後に戻りやすい環境整備に心がけます。
- ④ 【物】 持ち物の紛失や忘れ物がないように身辺整理で毎回確認します。忘れ物防止の1つの方法として入浴時など着替えを済ませてからタオルのみを持って大浴場に行きます。必要備品などの確認もプログラム前に必ず行い、子どもたちが円滑に楽しめる環境を整えます。
- ⑤ 【場所】 会場は実地踏査時と異なる時や貸切などの条件が整っていない場合もあります。子どもたちが移動する前に安全の確認と条件が整っているかをスタッフが確認します。
- ⑥ 【時間】 1人の遅れが1グループの遅れ、そして全体の遅れとなります。時間を常に確認し着替えなどに時間がかかる子どもに対しては早めに着替えるなどその都度改善をしていきます。すべてのプログラムをオンタイムで実施することで子どもたちが楽しむ時間をできるだけ多く確保いたします。しかし子どもたちを強制的に急がすことは安全管理の観点から行いません。
- ⑦ 【数】 人数・数量の不足などがないように人数カウントは顔を確認しながら行い、食事や配布物については子どもたちに配布する前に必ず確認を行います。

子ども専門旅行会社×引率舎×子ども旅行制作会社

<http://itaku.insotsu.com/>

体調管理・衛生管理ガイドライン（一部抜粋）

- ★ 手洗い、うがいの徹底。食事前、外出から戻ったときは消毒を徹底します。（バス内など水道のない場所ではアルコール消毒対応）
- ★ 食べ残したものはその場で処分し、後で食べるようなことがないようにします。
- ★ 計画や全体指示の服装にとらわれず子ども一人一人に合わせて服装・装備など調整いたします。
- ★ 子どもの様子を伺いながら休憩やトイレなど引率スタッフが配慮し声がけと確認を行います。
- ★ 風呂上がりは、よく頭や体をふき湯冷めさせないように注意いたします。また髪の毛の乾燥の確認と入浴後も靴下の着用を徹底いたします。
- ★ 乾燥によるウィルス増加による風邪や体調不良を極力減らすため、入浴後のタオルを各部屋に干し予防を実施します。
- ★ 伝言メモを確認し、常備薬はかならず決まった時間に忘れずに服用の確認をします。口頭確認ではなく目視確認と運営スタッフとディレクターのダブルチェックでより確実な服用を行います。

生活指導ガイドライン（一部抜粋）

- ★ 運営スタッフは基本的に子どもに対して怒る前に、運営スタッフとして改善すべき点がなかった考察し実践します。ただし、ルールを破ったり危険な行為については「叱る」こともあります。ただし、感情的になるのではなく「なぜ、いけないのか」を説明し、叱った後のフォローを必ず行ないます。また叱る時は、その後子どもたちの場に戻りやすいようにみんなの前ではなく必ず1対1で行います。
- ★ 子ども一人一人の善いところを認め伸ばす努力をします。そのために「誉める」機会を多く持つようにします。（誉める場合は叱る時と逆でみんなの前で行います）
- ★ いじめには細心の注意をします。いじめは運営スタッフのいない所、見えない所で起こります。些細なことでもその子にしては重大なこともあります。小さな声に耳を傾け、小さな行動にも配慮をわすれません。
- ★ 喧嘩の対応は原因を突き止め、対象者同士でしっかりと話をさせ解決への道へ促します。プログラムの参加よりも喧嘩の対応を優先いたします。対応は対象者のみで行い決して他の子どもたちがいる場所では行いません。
- ★ 各部屋では5Sを実施し荷物整理、忘れ物防止に努めます。荷物整理は子どもたちが自らが行ないますが、着替える、着た服をたたんでしまう、濡れたものはビニールに入れるなどの荷物整理の基礎を実施します。
- ★ 寝ている間に発作が起きたり体調が崩れたりすることもあります。そのため引率スタッフは24時間体制で子どもたちへの配慮・巡回を行います。